

タイトル：「秀芳の力」施設作型における長穂を利用したべたがけ方式直接挿し栽培技術

[要約]

「秀芳の力」ではべたがけ資材と遮光により、8～12月定植施設電照作型での直接挿し栽培が可能である。15cmの長い挿し穂を使用することで、生育促進と二度切り作型での収量増加を図ることができる。

香川県農業試験場小豆分場

[連絡先] 0879-75-0033

[部会名] 野菜・花き・茶(花き)

[専門] 栽培

[対象] きく

[分類] 普及

[背景・ねらい]

栽培圃場に直接挿し木する直接挿し栽培は、育苗施設を必要とせず、定植作業が省力的であることから、周年出荷に適応した作型ごとの技術の確立が求められている。そこで、8～12月期に定植を行う「秀芳の力」の施設作型について長穂を利用した直接挿し栽培技術を確認する。

[成果の内容・特徴]

1. 親株は、従来の栽培に準じて2回摘心し、最終摘心の4週間後を目安に適期に採穂する(図1、表1)。
2. 挿し穂の長さは15cm、挿し穂の重量(茎長の約半分の下葉を除去)は2～4g台のもので収量が多い(表1、3)。
3. べたがけ資材は、高温期は厚さ0.02mm有孔透明ポリフィルムを用いて地温の上昇を抑制し、加温期は厚さ0.05mm無孔透明ポリフィルムで湿度を高める(表2)。
4. 長穂は発根が遅いので、べたがけ被覆は発根が十分そろうまで行う(表3)。

[成果の活用面・留意点]

1. 加温施設栽培に適応可能である。
2. べたがけ期間中は資材に直接風が当たって乾燥することのないように注意する。
3. 親株は前日に殺菌剤で消毒するとともに、晴天日が2日以上続いたのちに採穂する。
4. 定植圃場の土壌消毒を行う。
5. 挿し穂は調整した後、乾燥しないようにポリフィルムで包み、立てた状態で3週間、5～8℃で貯蔵する。
6. 8～9月に定植する作型では、べたがけ被覆期間中及び除去後の数日間、50%遮光遮熱資材または70%程度の黒寒冷紗で遮光する。

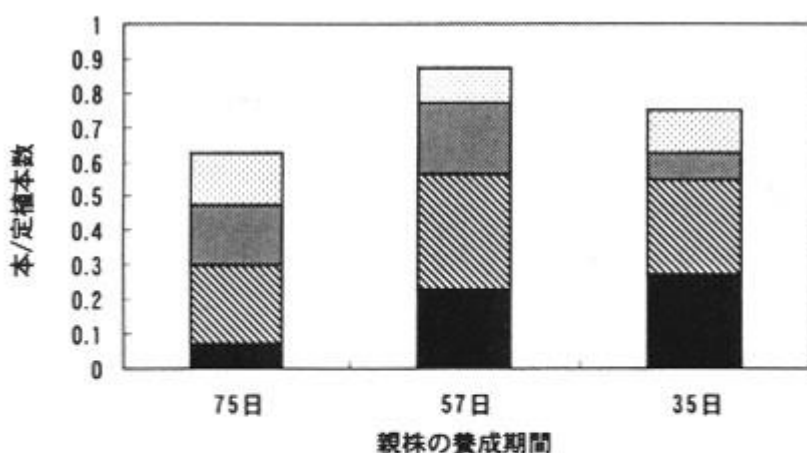


図1 親株の養成期間が規格別収量に及ぼす影響(平成9年)

■ 3L (75g以上) ▨ 2L (60~74g) ▩ L (50~59g) □ M (35~49g)

表1 親株の最終摘心から採穂までの長さ(週)と挿し穂の重量が活着と収量に及ぼす影響(平成9年)

週数	挿し穂の重量	活着率	茎長	開花時		上物収量
				節数	茎長	
	g台	%	cm		cm	%
6	5	87	17			
	4	67	13			
	3	69	16			
	2	62	13			
4	5	38	14	50	111	29
	4	100	21	54	127	77
	3	100	17	53	124	54
	2	100	18	53	122	85

注)挿し穂の長さは15cm。定植:9年9月10日。
 活着率、茎長は10月1日に調査した。
 上物収量は切り花調整重が60g以上の割合。

表2 べたがけ被覆資材が発根と被覆内の気象に及ぼす影響(平成10、11年)

定植日	べたがけ資材	発根状況		日最高地温	日平均地温	相対湿度	気温
		最長根長	根重(乾物重)				
		cm	mg	°C	°C	%	°C
8月3日	ポリ0.02有孔	3.2±1.3	40	36.3±1.8	31.9±3.0	96±2	33.1±3.8
	ポリ0.02無孔	1.7±0.5	40	38.7±2.0	33.0±3.8	93±2	33.2±4.0
	ポリ0.05無孔	1.8±0.5	42	38.4±2.1	33.0±3.6	96±2	33.5±4.2
12月9日	ポリ0.02有孔	3.1±0.9	33	26.6±2.6	19.0±4.3	85±3	24.1±6.5
	ポリ0.02無孔	2.9±1.2	71	25.7±2.1	18.8±3.8	90±2	22.6±5.8
	ポリ0.05無孔	3.8±0.7	100	26.1±2.5	19.1±3.9	94±4	21.7±6.1

注)表中の±位下の数値は標準偏差。
 発根調査は、8月3日定植は10日後、12月9日定植は12日後に実施。

表3 挿し穂の長さとべたがけ期間が発根と2番花の切り花品質・収量に及ぼす影響(平成9、10年)

穂長	べたがけ期間	発根状況		1番花			2番花		
		最長根長	根重(乾物重)	切り花長	切り花重	採花率	切り花長	切り花重	採花率
		cm	mg	cm	g	%	cm	g	%
7cm	8日	0.6	1	95	65	81	115	82	69
	10日	-	-	88	66	81	114	81	94
	12日	3.8	27	90	57	79	114	68	97
15cm	8日	0.2	0	93	54	75	118	66	67
	10日	-	-	90	71	90	111	81	100
	12日	2.6	10	96	56	100	117	67	110

注)発根調査はべたがけ除去時に調査した。定植:平成9年10月15日。
 切り花長、切り花重、採花率は切り花調整重35g以上の切り花について調査。

[その他]

研究課題名：21世紀に向けた特産キクの新省力栽培技術の確立

予算区分：県単

研究期間：平成11年（平成9～13年）

研究担当者：松本由利子

発表論文等：香川県農業試験場における近年の研究成果 20